

(英語版)

(アラビア語版)

(目次)

(SF小説) ナクバの東 (二十七)

第一部「イスラエル、イラン核施設を空爆す」 (二十四)

第七章 ナタンズ爆撃(三) バンカーバスター(二―二)



「エリート」は「マファイア」の放ったレーザー誘導爆弾「バンカーバスター」二発が目標地点を正確にとらえたことを確認した。しかし二回の爆発からは土煙しか上がらなかった。地中を数十フィート、強化コンクリートなら数フィートを貫通すると言われる「バンカーバスター」も地下施設までは着弾しなかったようである。

「エリート」は直ちに第二次攻撃体制に入り「マファイア」と同じ航跡をたどり同じ高度と距離から同じように二発のミサイルを続けて発射した。発射と同時に機首を立て直し急上昇モードに入った。「エリート」は急上昇から左旋回し、目標を視認できる態勢をとった。砂塵が少し納まり地上に噴火口のような穴が現れ、中心から白煙が上がっている。砂煙とは明らかに異なり地下で火災が発生していることを示す白煙である。

三番機の「アブダラー」から、赤外線レーダーが白い砂埃の奥に熱線を感じ知した、との報告が入った。後は止めを刺すだけである。「エリート」はしんがりの「アブダラー」に攻撃を命じた。

アブダッラーが発射した五発目の「バンカーバスター」が白い航跡を引いて噴火口に吸い込まれていく。次の瞬間そこから真っ赤な火柱が飛びだした。噴火口の周囲数カ所から次々と人間が飛び出してくる。まるで巣から這い出る蟻を見ているようである。五発のバンカーバスターでナタンズの施設は完全に破壊された。

(続く)

荒葉一也

(From an ordinary citizen in the cloud)